

沿岸低地に110万人

東海で3連動地震想定

東日本大震災の浸水被害は海抜5m以下、沿岸から四・五km以内の沿岸低地に集中した。東海、東南海、南海の三連動地震は、東日本と同じシナリオで想定規模も近い。名古屋大震災連携研究センターの調査に基づき、東日本並みの三連動が起きた場合の被害状況を大胆に想定してみると、千年に一度という東日本をしのぐ恐れが見えてくる。

(中村 慎一)



「東海」「東南海」「南海」

M8.7の恐れ

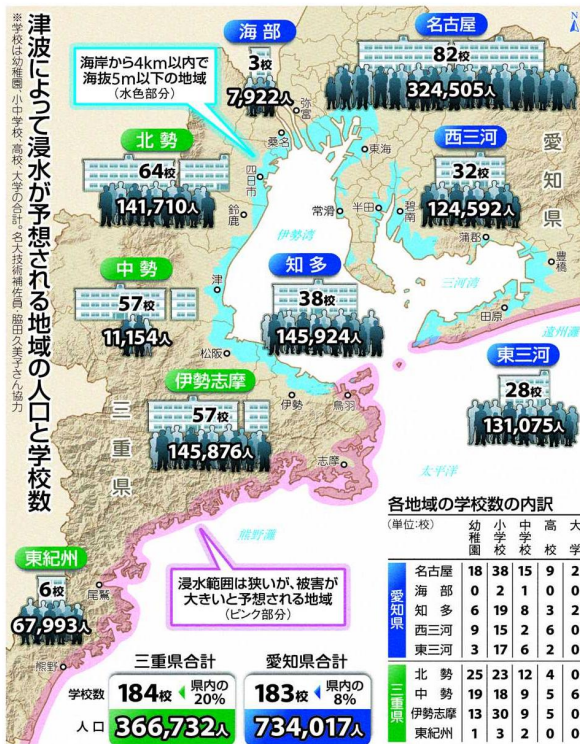
東海、東南海、南海の三連動地震は、静者は九千人と36%を占める。一方、死者・行方不明者計四千人に上る東日本大震災は、津波による死者が93%に達した。大規模な連動型の地震は想定外で、東海、東南海、南海が連動して発生するという見方は、東海、東南海、南海の三連動地震の規模で予見された。

東海三連動の場合、プレートの南北のずれは東日本より長くなる可能性がある。中央防災会議は本年度から被害想定の見直しを始めるが、東日本の最大津波被害を愛知、三重に迫るM8.7級被害想定は、沿岸自治体の防災計画見直しも務めになる。

学校・幼稚園は367校

東海地方にマグニチュード9.0の三連動地震が起きると、東海、東南海、南海の三連動地震は、東日本と同じシナリオで想定規模も近い。名古屋大震災連携研究センターの調査に基づき、東日本並みの三連動が起きた場合の被害状況を大胆に想定してみると、千年に一度という東日本をしのぐ恐れが見えてくる。

(中村 慎一)



津波によって浸水が予想される地域の人口と学校数

津波による浸水被害は海抜5m以下の沿岸低地に集中する。東海、東南海、南海の三連動地震は、東日本と同じシナリオで想定規模も近い。名古屋大震災連携研究センターの調査に基づき、東日本並みの三連動が起きた場合の被害状況を大胆に想定してみると、千年に一度という東日本をしのぐ恐れが見えてくる。

(中村 慎一)

東日本大震災では、津波が三陸沿岸の街をのみ込み、多くの命を奪った。この地方でも想定される東海地震による津波にどう備えた方がいいのか。群馬大広域首都圏防災研究センター長の片田敏孝教授（災害社会工学）に聞いた。



群馬大防災研究センター長

片田敏孝教授

津波 — 識者に聞く

— 東日本大震災の津波被害をどうみる。

波の前には無力になる。

— 想定外の津波への対処は。

よく想定外といわれるが、自然の長い営みを考えれば、今回は、それが徹底で

とにかく、逃げるしか手だてはない。今回は、それが徹底で

人が逃げずに亡くなっている。つまり、「この地域は津波が来ない」と、マップの想定を過信した結果、想定に縛られず、そ

点に立ち返って考え、行動するべきだろう。

— 高齢者や障害者のように避難が難しい人もいる。

のような地震や津波は起こり得る。防災の想定はあくまでも想定だ。いくら目標に沿って堤防を整備しても、それを超える津

きなかった。犠牲者の分布を見ると、ハザードマップで浸水域に住む人の多くは高台に逃げたのに対し、その周辺では多くの

それぞれの状況下で、最善を尽くす。これは知識ではなく、生きる姿勢の問題。自分の命を守るには、自分しかないという原

点に立ち返って考え、行動するべきだろう。

— 今回の津波では、多くの高齢者の命が奪われたこと、介護などで付き添った人も巻き込まれたのが特徴だ。高台まで避難できない場合を想定し、すぐに逃げ込むことができるタワーを沿岸部に造るなど、弱者を守る施設整備が重要になってくる。

「まず逃げる」徹底を

「一晩だけ」のはずが

むき出しの段ボール箱で代用したテレビ台に最近、淡い緑色の布をかけた。「少しは雰囲気や和らぐかと思って」と塙(はなわ)光一さん(43)。愛知県豊田市の県営住宅の6畳間。隣の妻幸さん(43)に目をやり「もう、ここにきて1カ月だもんな」とつぶやいた。

漂流するような日々だった。3月11日、福島県大熊町の自宅間際まで押し寄せた津波で、幸さんは娘の梨奈さん(18)、沙也加さん(14)を連れて町内の避難所へ。夜には職場から光一さんも合流。「家も家族も無事だったから一晩だけのつもりだった」

それが一変したのは福島第1原発1号機が爆発した翌12日。自宅から原発まで、わずか1*しかかない。

いつの日か

原発1号機からの避難

— 1 —

避難所を飛び出し、各地を回って集めたガソリンは30%。「とにかく走りだそう」。あてはなかったが、光一さんは西へとアクセルを踏んだ。

県境を越えて新潟県に入ったところ。ずっと圏外だった幸さんの携帯電話が、おばからのメールを次々と受信する。「大丈夫？ 豊田においでよ」

それだけを頼りにたどり着いた街で、被災者用の県営住宅に入居した。

今、即席のテレビ台に載った液晶画面が映し出すのは、無残な姿をさらす福島原発のニュースだ。「安全だと信じていたのに。裏切られた」。見通しのない避難生活は、2カ月目に入った。

◇

東日本大震災では、多くの人々が住み慣れた土地を追われ、避難先での生活再建に直面している。塙さん家族の日常から、「家族の復興」を見つめる。